品卦式J用動き土の潴束○ 【品卦示題歌至】

画金示風ニミ

(對豫語等文等大顧命立) 眼那 立木

(具端於冊でーパや部技慰支出品獎預於冊部共業強市滞京・元) 台(寛) 井 令

(素芸剛) 混志, 木箭

表発將和

(貝袋や門専構器袋がく ほくーグくト・4パーロを館命立) 山青 御浦

演舞器本日※ 演舞鵬基

みな茶さい熱フい用 多土のスパマキ差弦学大館命立※ 入場無料・申込不要

主催: 文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 「京都における工芸文化の総合的研究」(立命館大学)、 立命館大学アート・リサーチセンター

日時 | 2015年2月22日(日)

13:00→17:00(12:30 開場)

会場 | 立命館大学 衣笠キャンパス

末川記念会館 講義室

共催: 立命館大学文

協力: ZONE きも

基調講演

彬子女王

(京都市立芸術大学 芸術資源研究センター特別招聘研究員)

「工芸と伝統-思いを『つなぐ』意味-」

講演 ※英語講演・日本語通訳あり

シャロン・サダコ・タケダ

(Senior Curator and Department Head, Costume and Textiles, Los Angeles County Museum of Art [LACMA])

"East/West: Significant Moments in the History of the Study of Japanese Textiles in the United States"

(大阪樟蔭女子大学客員研究員、国立民族学博物館外来研究員)

「〈服装・身装文化デジタルアーカイブ〉 構築の 観点から」

活動報告

木立 雅朗 (立命館大学文学部教授)

細井 浩一 (立命館大学映像学部教授)

鈴木 桂子 (立命館大学衣笠総合研究機構教授)

山本 真紗子 (日本学術振興会特別研究員)

ミニ展示企画

場所:立命館大学アート・リサーチセンター 多目的ルーム

【予定展示作品】 ●京都工芸 P で作成した、京友禅(手描き友禅・型友禅) 着物 ●アート・リ センター染織関係データベース ●アート・リサーチセンター所蔵図案整理作業のご ●セカンド・ライフ内『型友禅美術館』

上芸を支える資源

要不込申・将無誤入

室羨鞴 2 策 路京中でアスパンケキー製会

10:50→17:10(10:30問題)

日降 | 7012 表 子 日 (日)

| 21 - 1945 - 34 - 195 - 19

2014年7月12日·13日に、成果の一部を展覧会「分業から協業ペー大学が、若冲と京の伝統工芸を未来に繋げる-」展として公開し、両日あわせて1700名以上ご来場いただきました。また、2014年10月13日に、シンポジウム第1弾として「つたえる力-京都の伝統工芸-」を実施いたしました。そしてこのたび、シンポジウム第2弾2015年2月22日(日)「つたえる力2 工芸研究とデジタル・ヒューマニティーズ」、第3弾として3月8日(日)に「つたえる力3 京都の土と石 - 伝統工芸を支える資源 - 」を実施いたします。

# シンポジウム・シリーズ「つたえる力」

13:00 ~ 開会

Town!

13:05 ~ 基調講演

彬子女王(京都市立芸術大学 芸術資源研究センター特別招聘研究員) 「工芸と伝統―思いを『つなぐ』意味―」

13:35 ~ 講演 ※英語講演・日本語通訳あり

シャロン・サダコ・タケダ

(Senior Curator and Department Head, Costume and Textiles, Los Angeles County Museum of Art [LACMA])

"East/West: Significant Moments in the History of the Study of Japanese Textiles in the United States"

|4:40 ~ 活動報告「京都工芸プログラムを通じてみえてきたもの -工芸研究とデジタル・ヒューマニティーズ-|

山本 真紗子(日本学術振興会特別研究員)

「友禅を調べる―資料の掘り起しとその発信」

細井 浩一(立命館大学映像学部教授)

「伝統工芸をみせる – セカンドライフとバーチャルハイブリッドタグ」

鈴木 桂子(立命館大学衣笠総合研究機構教授)

「きもの文化とその研究の海外発信」

木立 雅朗(立命館大学文学部教授)

「友禅図案を活かす-和鏡・唐紙・友禅小物」

15:30~ 講演

高橋 晴子(大阪樟蔭女子大学客員研究員、国立民族学博物館外来研究員) 「〈服装・身装文化デジタルアーカイブ〉構築の観点から」

16:10~ パネル・ディスカッション 「つたえる力 – 京都の伝統工芸」

17:00 閉会

京都にはさまざまな工芸と、それを支える、あるいはとりまく文化がある。いわゆる伝統的なモノづくりに注目があつまり、関係者の努力や工夫はあるものの、さまざまな社会情勢の変化のなかでこれまでの工芸をささえていた素材、技術は揺らいでいる。京都工芸Pでは、こうした現状を踏まえ、さまざまなアプローチから研究を試みている。

京都工芸Pでは鏡、唐紙、京焼など京都の伝統工芸に関する調査をおこなってきた。2010年度から立命館大学アート・リサーチセンターに近代の型友禅図案が収蔵されたことをきっかけに、京友禅についての調査を開始。文献調査や開取り調査など、従来の研究手法のほか、データベースの活用や仮想空間での再現などのデジタル・ヒューマニティーズ的手法も併用しながら研究をおこなっている。

本シンポジウムでは、海外や外部研究者らの視点を交えて本研究拠点の取り組み をご紹介するほか、今後の研究の方向性を探る。

\*本シンポジウムは台風のため中止となった 2014 年 10月13日「つたえる力 – 京都の伝統工芸 – 」の午後のプログラムをもとに、再構成したものです。

京都の伝統工芸を支えてきた道具や資源に焦点をあて、それらが歴史的にどのように活用されてきたのか、それが現代ではどのように取り扱われているのかを明らかにし、未来にむけた伝統工芸のあり方を模索する。

京焼にとっては重要な道具であった登り窯は、都市部では使用が禁止されて入しい。土や石も採取が困難な状況である。京都から脱出したり、電気窯やガス窯を使用すること、京都以外の産地から土を移入することは、もはや普通のことである。登り窯の記憶は伝説化し、共同幻想が生まれているように見える。また、陶芸家ですら、「京都には土がない」と信じて疑わない方が存在する。京都の資源を足元から照らしなおし、今一度、「京都らしさ」とは何か、私たちは何を伝えるべきなのか、ということを、近年の研究状況や国際的な視点から問い直したい。

10:50~ 開会

1:00 ~ 講演

岡 佳子 (大手前大学総合文化学部教授) 「近世京焼の御用達と陶土」

前崎 信也 (立命館グローバル・イノベーション研究機構専門研究員) 「五条坂に残る登り窯の今 – 産業廃棄物と文化遺産のはざまで」

13:00 ~ 基調講演 ※日本語講演

ルイーズ・コート (国立スミソニアン協会フリーア美術館) 「京焼の土と登り窯-世界からみた京焼と登り窯-(仮題)」

14:00 ~ 研究発表

清水 志郎 (陶芸家) 【司会・木立雅朗】 「陶芸家からみた京都の土 - 講演と展示解説 - 」

14:40 ~ 研究発表

今井 寛治 (元・京都市産業技術研究所製品化支援技術グループ研究部長) 「聚楽土と現在の京都の土 - 京焼・土壁・竈 - (仮題)」

5:05~ 講演

山田 拓広 (花豊造園株式会社代表取締役社長) 「京都の庭園から見た自然資源」

15:30 ~ 研究発表

木立 雅朗 (立命館大学文学部教授) 「京都の土と窯」

16:05~ シンポジウム「京の土と石-伝統工芸を支える資源をめぐって-」

17:10 閉会

#### [目時] **2015** 年 **2** 月 **22** 日(日) 13:00→17:00(12:30 開場)

## [会場] 立命館大学 衣笠キャンパス 末川記念会館 講義室

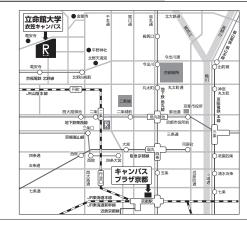
〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1 http://www.ritsumei.jp/

主催: 文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 「京都における工芸文化の総合的研究」(立命館大学)、 立命館大学アート・リサーチセンター

共催:立命館大学文学部京都学専攻

《両日》入場無料・申込不要

協力: ZONE きものデザイン研究所 http://zone-kimono.com/



#### [日時] **2015** 年 **3** 月 **8** 日(日) 10:50→17:10(10:30 開場)

### [会場] キャンパスプラザ京都 第2講義室

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町 939 http://www.consortium.or.jp/

主催: 文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 「京都における工芸文化の総合的研究」(立命館大学)、 立命館大学アート・リサーチセンター

共催: 立命館大学文学部京都学専攻

伝

統

工芸を支える資